

石に刻まれた香芝の歴史

まちかどで見かける顕彰碑や記念碑など、「何が書いてあるのかな」と気になりながら「じっくり見ている時間もないし」、「難しくて読めない」というのが大方のご意見だと思います。しかし、刻まれた銘文は地域史を考える上ではパンドラの箱であって、貴重な情報がたくさん詰まっています。

市内の石造物調査は平成18年度から継続的に実施しており、それらの成果は平成20・21年度の市「広報かしば」やCANCAN Mailmagazineなどに掲載しました。ここでは、さらに追加資料を加えてホームページ版としてご紹介します。

二上地区

① 田尻峠の里程標



田尻峠の里程標（田尻）

（概要）
旧道路法（法律第五八号、大正八年四月一日）が制定され、同法施行令（勅令第四六〇号、同年一月四日公布）によって道路元標が法制化された。それ以前には「里程元標」、「里程標」があった。大政官達第四一三号（明治六年二月二〇日）の「諸街道里程取調方法並二元標及里程標柱書式ヲ定ム」により、各府県に里程調査が命じられ、各街道の距離を測定し、里程標を建て道路状況を把握するための措置がとられた（この通達には旧道路法附則第六五条の三で廃止となっている）。

奈良県の道路整備は、明治期に奈良県告示第三〇号（明治二六年三月二二日）の「道路河川ノ種別ノ定ムルコト」により、甲種、乙種假定県道、甲種里道が定められ、大正期には、旧道路法第一一条に基づき、同告示第九〇号（大正九年四月一日）にて県道路線が認定され、同告示第九二号（同年同月日）で道路元標の位置を定めた。

田尻峠の里程標は、銘文からこれら大正九年の道路整備に伴って建てられたことがわかる。

（銘文）
従是東 奈良県管轄
従是東 大和国 北葛城郡二上村大字田尻
大正九年三月建 奈良県
距奈良市橋本町元標 八里三町五十五間
距奈良県北葛城郡役所 二里十六町二十五間
距奈良県北葛城郡高田町元標 二里三十五町十三間

② 田尻観音寺の石標



田尻観音寺の石標（田尻）

（概要）
旧長尾街道に面して、楠木正成ゆかりの木造十一面千手観音菩薩立像を本尊とする観音寺の石標である。

（銘文）
楠正成公
矢除観世音
當山
（正面）
寺内
北條屋与右衛門（右側）
千時天保十一庚子年正月建立（左側）
釈 諦保
妙春
了道
（背面）
天保十一年（一八四〇）

③旗尾池鎮守社境内碑



(銘文)
聖徳太子御築造
旗尾之池
法隆寺貫主大僧正定胤書
日本書紀推古天皇十五年條
日於倭国作局岡池此池蓋其
一平聖跡可以傳于萬代矣
昭和十八年癸未四月二十三日
旗尾池郷中修建之

(裏)



(概要)
閑屋に旗尾□分川という二つの大きな溜池がある。いずれも聖徳太子が掘られた池との伝がある。中世から近世初頭に上里村(現北今市・今泉・上中・高・中筋出作)と呼ばれた地域は、両池の灌漑地域である。そのため、今日農業用水として恩恵を受けている農家の人で太子講を組織し、毎年、太子への恩を謝して、収穫の一部を供米として法隆寺に納入してきた伝統を受け継いでいる。
これらの地域では、三月二日の法隆寺会式の日を年中行事のハルゴトとしてのレンゾにあてて。さらに四月二三日の嶽のぼりには、法隆寺から僧侶を招き、旗尾池の水神の祠で地域の水利組合の代表者も参列され法要が営まれる。なお、北今市から以南の地域は、二上山から流れる水の恩恵を受けるため嶽郷を形成し、嶽のぼりは、祈雨と書いた布や幡をもって二上山に登り、嶽の権現に水をもらいに行くという習俗となっていた。また、当麻寺の信仰範囲、中將姫の伝承も加わって、五月一日の当麻会式(練り供養)をレンゾにあてて。
このように、香芝市の北と南の地域では水利にまつわって信仰形態が異なるのが特徴である。

(表)

④穴虫峠の万葉歌碑



(概要)
国道一六五号線、同大和高田バイパス(通称山麓線)、県道香芝太子線が交差する穴虫峠にこの歌碑が建立されている。建立当時の「広報かしは」(昭和六〇年一〇月二日号)には、短文であるが詳しく紹介されている。「このほど、安川翁の顕彰碑を建立された下村佳さんと田尻のト部正枝さんらが発起人となり、天然記念物・どんづる峯を中心とする二上山の自然環境と歴史的風土の保全への願いをこめて、「万葉歌碑」が穴虫峠の国道一六五号線沿いに建立されました。この碑は「大坂をわが越えくれば二上にもみじ葉流るしぐれふりつつ」と万葉歌が刻みこまれ、自然保全が永遠にとの願いがこめられています」とある。
また、歌碑の横には「歌碑建立の趣意」とある石碑があり、建立に至る経緯が詳しく述べられている。

⑤大の松為次郎と宮相撲

⑤大の松為次郎と宮相撲



(銘文)
大の松之墓(南)
台石 門弟中(南)
俗名 吉田為次郎
妻うの(西)
大正四年六月上旬(東)

⑤大の松為次郎と宮相撲

(概要)
穴虫の大坂山口神社は、須佐之男命を奉祀するため、近世には牛頭天王社と呼ばれていた。秋の大祭には奉納相撲が行われ、相当な賑わいがあった。拝殿には文久二年(一八六二)と明治三八年(一九〇五)の板番付が残され、境内に「馬場組」の記念碑もあり、近年まで土俵も残されていた。地元出身の力士大の松為次郎(吉田栄蔵)は、「二上山村史」によると、大正四年六月に大坂山口神社で引退興行を行ったとあり、その後、勧進相撲の総元締として活躍した。現在、智足庵(穴虫)には引退の折に建立された「大の松之墓」とある墓碑が残っている。大正一四年一月六日、六三才で亡くなったが、葬儀には親友の大坂相撲高田川部屋・五力士の初嵐が来て棺を担いでいる。近世以降、良福寺・當麻・勝根、五位堂など、村名を冠した組があちこちにあり、二上山麓一帯で相当相撲が盛んであったことがわかる。

⑥二上村道路元標



下田村道路元標



■二上村道路元標（穴虫）

（概要）

道路元標は旧道路法（法律第五八号、大正八年四月一〇日公布）に基づき、道路の起点や終点、経過地を表示するための標識のことです。各市町村に一ヶ所設置するなど、旧道路法施行令に詳しい。奈良県では、奈良県告示第九二号（同九年四月一日）にて「道路法施行令第八條ニ依り道路元標ノ位置左ノ通定ム」とあり、市内では各旧村（五位堂村・二上村・下田村・志都美村）に設置された。しかし、新道路法（法律第一八〇号、昭和二十七年六月一〇日公布）の施行令により設置基準がなくなり、道路の拡幅や市町村合併等により、その多くが失われた。市内では、下田と二上の二基だけが残されている。

⑦安川亀太郎顕彰碑



下村佳右

功績をたはに伝へむとくろ石に 佳右
光澤へたる翁がおもひ
翁 安政四年此處穴虫村ニ生マサキ 善性温厚篤愛ニシテ衆望ヲ聚ムルアリ 明治ノ文明開化シ社年ニ至ルヤ古来コノ地ニ特産トシテ採掘セラレタリシ金剛砂ニソノ敷智ヲ投ゼラレ救済ノ経営手腕ヲモツテ近代的地場産業トシテ育成セラル ソノ採掘ナラビニ販賣等ニ東奔西走日ナカリキトイフ マタ以テ衆民ノ生業ノ安定ト繁栄ヲ図ラレタリキソノ功マコトニ多クストスベキナリ ソノ明ノ艱難辛苦甚古ニ尽シ難キモノアリシナラム金剛砂ハ俗ニコノヲ右御石ト称シ玉石或イハ硝子村ナドヲ磨キ米タリシト古記ニアリ 二上山周辺ニ産スル貴重ノ資源ナリ現今コノ地ニ研磨産業ヲオケテ健康道徳ニ連ナリテ盛行セラレ 全国ニ周クソノ有名ヲ馳スルハ慶賀ノ極ミナリ 翁ヲ金剛砂王ト称ヘ 曾ニソノ銅像ヲ大穴虫村ニ建立セラレタレコトアリ 事アリテ今コノ真像ヲ仰ギ得ズ 再建ノ業ヲオケ未ダシト聞ケバ斯業ニカカハリ ソノ恩顧ヲ日々厚キ感謝ノ念ヲモツテ受クル生ソノ温厚ヲ徳ブニ氣持チャミ難クコトニ思ヒ立テ翁ヘノ忠告ノ報恩ヲモサムトテ地ヲ草シス官ノ十分ナラザルヲ恐レツツモ 翁顯彰ノ碑トナサムトス
（裏） 昭和乙丑年三月吉日 光徳研磨村工業所
建立者 撰文 謹書 下村佳右
下村孝正

■安川亀太郎顕彰碑（畑）

（概要）

安川亀太郎氏は、安政四年（一八五七）二月二八日、船木家直七の次男として生まれ、明治一三年（一八八二）の二四才の頃、同地安川家の弥十郎の孫、テツの婿養子となった。亀太郎氏については、「安川亀太郎翁銅像（現存しない）台石の銅板銘と「安川亀太郎翁顕彰ノ碑」に詳しいが、金剛砂の採掘並びに販売等に東奔西走され、その人柄や経営手腕によって近代的地場産業の地位にまで押し上げた功績、同業者から「金剛砂王」と称えて呼ばれた旨が記されている。大正一四年（一九二五）一月二六日、六九才で没した。直接の家系は存続していないが、実家の船木家は現在も金剛砂業を営んでいる。

（銘文）

（表）安川亀太郎翁顕彰ノ碑

（裏）

⑧真善寺・安川亀太郎之碑



■真善寺・安川亀太郎之碑（穴虫一四〇六）

（概要）

安川亀太郎翁の銅像は、昭和四年（一九二九）、現在の国道一六五号線から五月ヶ丘の入口付近に建立された。当初は立像であったが、戦時中に供出され、戦後、あらためて胸像が建立された。台石は当初のものを再利用されていた。五月ヶ丘の開発に伴って、進入路を確保するため、真善寺に移されるが、風雨により朽ちていたこともあり、移動後間もなく、同寺境内の井戸に埋納された。現在、井戸跡の上には、昭和四三年（一九六八）七月、地元有志により建立された記念碑がある。

（銘文）

安川亀太郎之碑

（表面）

昭和四三年七月吉日

（裏面）

地元有志一同 建之

★参考 銅像銅板（正面）

安川亀太郎翁像 奈良県知事菅井幸一郎書

銅板（左側面） 原文

故安川亀太郎翁生本村船木家業安川氏善性温厚篤愛多客衆風

達觀金剛砂有望而從採掘販賣東奔西走苦心經營博我國特産

品名聲聞地方財界融和其功績豈不甚大哉干今汲其流者幾千人

呼称金剛砂王享年六十有九為謝恩有志相謀ト此地永貽其德後

世焉

昭和四年十二月中旬

從六位勲六等 松村鶴次郎書



⑨新池堤防の常夜燈



大塚山上常夜燈

天明六丙午歳
大神宮
五月吉日

北 大坂 さかい 道
南 大塚山上 たるま
大塚山上常夜燈
十一月吉日
明和四丁亥年

四月吉日
金毘羅大権現
文化五戊辰年



■新池堤防の常夜燈（畑六丁目）

（概要）

燈籠は旧街道にあつて旅人の道中安全・目的地への方向指示を与える道標的な意味をもつものと、社寺に奉納されるいわゆる「献燈」があるが、夜道を行く人びとを照らし、安全を守るといふ点では目的は同じである。香芝市は近世になると、長谷・伊勢・當麻・吉野・大塚などの社寺詣での道として賑わい、また産業道路としても多くの人びとが利用し、その恩恵を受けてきた。そのため、市内のいたるところで道標的な役割を果たす石燈籠を散見することができる。

畑の新池北堤上には三基の石燈籠が建っているが、西から文化五年（一八〇八）の「金毘羅大権現」、天明六年（一七八）の「大神宮」、明和四年（一七六七）の「大塚山」となっている。あきらかに目的や建立年が異なるため、道路整備か何かの都合で一ヶ所に集められたものと考えられるが、当初の建立場所やいつごろ移されたのかは不詳である。

（銘文）

⑩河内大和地震復興記念碑



（銘文）
昭和十一年二月二十一日午前十時七分
大和河内二里地震
二依り春日神社々殿及
比造宮物ノ大損壊
ヲ蒙ル 因テ
敬神深キ氏子之
芳志篤ク早々全年
十月十六日改造増築
之落成式典ヲ茲ニ挙ク
昭和十一年十月十五日建之



春日神社

■河内大和地震復興記念碑（磯壁五丁目）

（概要）

昭和十一年（一九三六）年二月二一日午前一〇時七分、二上山麓を震源とした強地震が発生しました。河内大和地震と称され、マグニチュード六・四（推定）、奈良県では死者一人、家屋の損壊約二二〇戸、道路や堤防の亀裂も各所で起こり、法隆寺・唐招提寺・薬師寺などでは土塀の損傷などの被害が報告されています。

磯壁の春日神社境内には、この地震で被害のあつた当社の復興記念碑があります。それによると、社殿やその他の建物に大きな被害がでたようですが、同年一〇月一六日に増改築の落成式典を迎えたところあります。氏子の皆さんの篤い信仰心に支えられながら、わずか八ヶ月で復興にいたるには、氏子総代や十人衆の方々の大変なご尽力があつたものと推察されます。

⑪海を渡ってきた武人



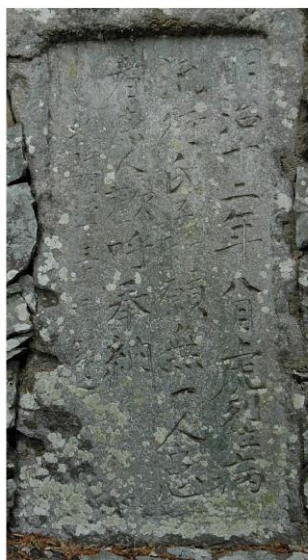
■海を渡ってきた武人（藤山一丁目）

（概要）

この武人は、別所城山2号墳出土の札甲（さねよろい）と類似の甲を着ている中国□洛陽出土の俑（土製人形）をモデルに創作した。ふたかみ文化センター前庭にて来館者をお迎えしている。

志都美地区

⑫ 志都美神社のコレラ防疫碑



■ 志都美神社のコレラ防疫碑（今泉）

（概要）

明治一〇年（一八七七）と同二年（一八七九）にコレラが大流行し、同一〇年八月、内務省が「虎列刺病予防心得」を定め、同一二年六月、「虎列刺病予防規則」（太政官布告第二三三号）、同年七月、「港湾虎列刺病伝染予防規則」（太政官布告第二八号）、同一三年（一八八〇）年七月、「伝染病予防規則」（太政官布告第三四号）などを公布し、衛生、防疫体制の整備を急ぎました。

一方庶民は、幕末から明治初期にかけてコレラ退散を願って神仏に頼り、各地で疫神祭、コレラ祭などを行っていました。志都美神社本殿背後の石垣の中には、同一三年に建立された防疫碑があります。同一二年の大流行において本市でもコレラ患者が発生し感染が広がりました。志都美村の人びとはコレラ退散を氏神に祈願し、その結果、一人の患者も出さずことなく無事に済んだ喜びと感謝を込めてこの碑を奉納されました。

（銘文）

明治十二年八月虎列刺病
流行氏子祈願無一人患
者庶人歎呼奉納
維時明治十三年二月築之

明治十三年（一八八〇） 総高一七〇センチ

⑬ 畑之浦の大峯山常夜燈



■ 畑之浦の大峯山常夜燈（今泉）

（概要）

旧大子道沿いに所在する大峯山常夜燈の一基。

（銘文）

三十三度
大峯山夜燈
當村講中
世話人 伊助
安永七年戊戌九月口辰

総高二一三センチ、安永七年（一七七八）



⑭ 下寺の大峯山上常夜燈



■ 下寺の大峯山上常夜燈（今泉）

（概要）

旧大子道沿いに所在する大峯山常夜燈の一基。

（銘文）

文化三寅四月八日
常夜燈 （東） （北）
大峯山上 （南）
台石 （南）
世話人
庄右衛門
村

中口
□平治
清治□

送迎
嘉平次

総高一七三センチ、文化三年（一八〇六）



⑮分川池堤塘改修記念碑

■分川池堤塘改修記念碑（今泉）

（概要）

分川池北東堤の門樋付近に建立されている改修記念碑である。

（銘文）

分川池堤塘改修記念碑

此の池は、その昔聖徳太子の御造営と伝られその豊富な水量は流域水田に旱魃の憂い無く農民は感謝と誇りそして親しみをもって大切に保存管理をなれて来た

昭和五十五年初めに漏水のため応急修理されたが同年六月出水量増加し危険な状態となった。そこで県及町に補助を要請し池掛負担金を合せて壹千萬円の工費にて堤塘の改修と水門樋の取替工事を昭和五十六年三月着工、同年五月二十日に竣工した

昭和五十六年十月一日 建之

昭和五十六年（一九八一）



⑯聖徳太子築造に依る分川池縁起の碑

■聖徳太子築造に依る分川池縁起の碑（今泉）

（概要）

分川池北東に位置する太子堂の境内に所在する。

（銘文）

聖徳太子築造に依る分川池縁起

日本書紀推古天皇十五年御築造さるる

この御塚の御守護神は八大龍王であり、分川池の水神と二上山の岳の権現は一物一体の神にて分川池の水源は池底の神の御口通により二上山から流れ込んで

この池の池守をしていた高橋良裕の祖父杉村源次郎が或る日水神様の夢枕のおつげによりこの池に水神を祀る 水神をお

祀りしそれを記念してこの碑を建立す

維時 昭和五十四年九月吉日

昭和五十四年（一九七九）



⑰上中の大峯山常夜燈

■上中の大峯山常夜燈（上中）

（概要）

J R 志都美駅南側踏切西側、石造地藏菩薩立像（死入地藏）を祀る祠の横に建立されている。他に不動石仏や庚申塔も祀られていることから移築されてきたものと考えられる。

（銘文）

大峯山常夜燈

明和五年

八月吉日

大峯山常夜燈

六十六度講中

明和五年（一七六八）



⑱ 萬善寺の名号碑



■ 萬善寺の名号碑 萬善寺（上中三六〇）

（概要）
萬善寺境内の名号碑である。

（銘文）
南無阿弥陀仏
（下段）

寛文二年
十一月十五日

寛文二年（一六六二）・総高一〇七・五・

⑲ 太神宮・金毘羅大権現の常夜燈



■ 太神宮・金毘羅大権現の常夜燈（上中）

（概要）
JR志都美駅前、太神宮・金毘羅大権現の祠前に建つ常夜燈である。

（銘文）
太神宮常夜燈
領主御武運長久

大神宮
五穀成就
文政十二己丑年九月吉日
（台石）村中

（銘文）
金毘羅大権現常夜燈
五穀成就
金毘羅大権現
領主御武運長久
文政十二己丑年十月十日
（台石）村中

文政一二年（一八二九）・総高二〇五・五・

⑳ 宮大工・小林源三郎顕彰碑



■ 宮大工・小林源三郎顕彰碑（上中）

（概要）
JR志都美駅前側、正願寺境内に建立されている。

名工・小林源蔵昌長（神光寺三重塔建立の大工棟梁後見役）の三男で、天保四年（一八三三）生まれ。京阪地方の名匠に師事し、大和北葛城郡の名匠福田氏の養子となる。大和の神社仏閣の建築設計に天才的な技を揮い、多くの弟子を指導した。
長野県南佐久郡の松原諏方神社上社社殿の再建（明治二三年）では棟梁として迎えられ、善光寺塔再建計画では棟梁小林源三郎を請負者としたが、計画が頓挫する。

（銘文）

翁名勝長称源三郎小林氏信濃人家口為工師考諱昌長称源蔵尤善口神祠佛堂口曲面勢著書以資口工入翁少興二兄共受其業能悉繼與年二十以考命遊東西諸国未大和歴觀舊祠古刹審究其式制著神祠體形佛閣難形二書居数年遠近聘者漸多入門口業者亦百有餘人口任大土木事者皆就翁乞教後遂為祠於北葛城郡志都美郡小林氏而為大工職取締其所造口前口前口而信濃国松原祠善光寺五層塔形図大和国丹生川上祠百濟村祠火雷祠一言主祠橘寺大子廟及一切経堂志貴山多宝塔松尾寺二層塔櫓羅薩麗内国高安天理分教會堂尤精精巧受賞頗多口振津国大念仏寺之火也殿堂悉口入莫識舊形北畠男使翁因之図成而無恙口差其諸口式制如口翁為人寛厚性淡口飲食今年七十一健如壯者於養生術口有法云配口田氏無子養同族竹嶋藤治即第二子平蔵以為嗣與庫蔵者入室弟子也頃口其徒相謀欲建碑於翁宅側以不朽其業未請余文乃序其梗概係以銘曰

巧口技 口口年 稀口世 裏口天
明治三十六年十月

美作 後藤口撰併書

明治三十六年（一九〇三）

② 黒松喜洲顕彰碑



■ 黒松喜洲顕彰碑（上中）

（概要）

J R 志都美駅東側ロータリー、旧當麻道近くに建立されている顕彰碑である。昭和三〇年（一九五五）一月、J R 和歌山線 畠田・志都美駅開業に尽力された村長黒松喜洲氏等を顕彰するもので、開業一〇周年を記念したものと考えられる。

（銘文）

元志都美村村長黒松喜洲氏
昭和二十八年六月十日旧志都美村ニ於テ志都美駅設置期成同盟会ヲ結成昭和三十年十二月二十七日志都美駅完成此ノ間氏ハ志都美村村長トシテ当時議長堀川栄太郎氏並ニ特別委員辻本口一郎氏吉村喜孝氏等ト共ニ国鉄ソノ他関係当局トノ折衝ニ東奔西走幾多ノ困難ヲ克服多年村民ノ宿願テアツタ志都美畠田ニ駅ヲ実現郷土発展ニ寄与サレタソノ功績ハ誠ニ大ナルモノテアリ吾々ノ等シク敬服スル処デアリ依而氏ノ功績ヲ讃エ永ク後世ニ記念スル為茲ニ顕彰碑ヲ建立スル

発起人 志都美地区総代一同

昭和四十年十二月二十七日

奈良県志都美地区住民建之

昭和四〇年（一九六五年）

② 薬師堂跡の名号碑



■ 薬師堂跡の名号碑（尼寺）

（概要）

般若院の東、薬師堂跡に祀られている名号碑である。

（銘文）

慶長十四年巳
南無阿弥陀佛
二月十五日

慶長一四年（一六〇九）・総高一三二センチ

③ 薬師堂跡の常夜燈



■ 薬師堂跡の常夜燈（尼寺）

（概要）

旧太子道沿いに所在する

（銘文）

○大峯山上常夜燈
大峯山上常夜燈
宝暦十四年未年正月七日

宝暦一四年（一七六四）・総高一五四センチ

○薬師如来講常夜燈
明和四丁□□□□
薬師如来講中
般若院□□□□□

明和四年（一七六七）・総高一七〇センチ

下田地区

②4 いやんの井戸の大神宮常夜燈

■ いやんの井戸の大神宮常夜燈（下田東二丁目）

（概要）

JR香芝駅から東へ約四〇〇㍍。伊勢街道に面して、「いやんの井戸」と呼ばれる井戸の南側、小祠と二基の大神宮燈籠が所在する。
この井戸の由来沿革は不詳であるが、生活用水としてだけでなく、旅人の喉を潤していたと思われる。また、さらに伊勢街道にそって東へ約三〇〇㍍進むと、弘法井戸がある。

（銘文）

大神宮

（西）

大正十五年七月吉日

町内安全
中筋

（東）

大正一五年（一九二六）



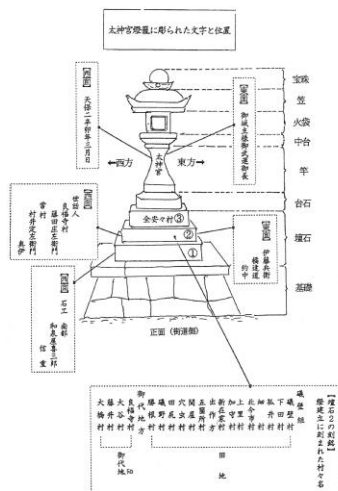
②5 伊勢街道の太神宮常夜燈

■ 伊勢街道の太神宮常夜燈（下田東一丁目）

（概要）

JR香芝駅の南路切を渡るとすぐ左手に建立されている。高さは約四㍍あり、市内の旧街道に設置された常夜燈の中でも最大規模を誇る。
伊勢街道は、閑屋で長尾街道と分岐し、逢坂・藤山・下田・瓦口・別所の各集落内を通り、広陵町と結ばれているが、とくにこの常夜燈が面する下田の東西道は王寺町から南下してきた菅麻道と道を同じくし、さらに菅麻方面へ向かう狐井街道の起点ともなっており、市（いち）が立ち旅籠も数件あつて大変賑わっていた。

銘文から、下田と良福寺の庄屋筋が世話人となり、郡山藩の旧地蔵壁組と御代知方の各村々によって建立されたことがわかる。



「大神宮燈籠調査報告」 山口俊一氏 より転載



②6 下田村道路元標

■ 下田村道路元標（下田西一丁目）

（概要）

JR香芝駅の北側、下田地区公民館の玄関左手に所在する。もとは、下田東四丁目目所在したが、平成一八年六月に現在地に移されている。
道路元標は旧道路法（法律第五八号、大正八年四月一〇日公布）に基づき、道路の起点と終点、経過地を表示するための標識のことで、旧道路法施行令（勅令第四六〇号、同年一月四日公布）に詳しい。それによると、元標は各市町村に一ヶ所設置し、その位置は知事が定めることになっている。奈良県では、奈良県告示第九二二号（同九年四月一日）にて「道路法施行令第八條ニ依り道路元標ノ位置左ノ通定ム」とあり、市内では「五位堂村大字五位堂、字本屋敷二百六十七番地先」、「二上村大字穴虫、巡查駐在所前」、「下田村大字下田、字中ノ町千二百九十五番地先」、「志都美村大字高、字南ノ筋七十二番地先」とある。また、内務省令第二〇号（同一年八月公布、改正：内務省令第一五号、同一年九月二四日公布）には、元標は耐久性を考慮し石材等を使用することや、法量や文字等が細かく規定されている。
しかし、新道路法（法律第一八〇号、昭和二十七年六月一〇日公布）が制定され、その新施行令（政令第四七九号、同年一月二四日公布）の附則二二において、旧施行令が廃止されたため、設置基準がなくなり、単なる道路の付属物としての扱いになっている。そのため、道路の拡幅や市町村の合併等によって、その多くが所在不明である。



■ 今池門樋修築記念碑（下田西三丁目）

（概要）

近鉄下田駅から西へ約五〇〇㊦。今池親水公園北側の門樋（水門）にある修築記念碑である。

この碑は文久二年（一八六二）の工事のもので、役員名、棟梁名、簡単な工事内容で構成されている。池普請棟梁の佐平氏（農業佐平）氏は明治一〇年（一八七七）の東堤修築の際も現場で指揮を執っている。佐平氏は当時の下田村では大変人望が厚く、大正九年（一九二〇）には、法楽寺境内に佐平氏の遺徳を偲んで顕彰碑が建立された。



銘文

門樋

當村役人

庄屋

村井又十郎

年寄

福田伊六

同

葛井忠二郎

同

清一郎

普請棟梁

西口

佐兵衛

字今池口 御田地口

水溜池村方相談之上

堤笠口五尺造築之

以永々不持者乎

壬戌年五月日

②⑧ 西口の大峯山上常夜燈

■ 西口の大峯山上常夜燈（下田東二丁目）

（概要）

狐井街道沿いに所在したが、葛下川付け替え工事に伴って東へ約三〇㊦に移転した。

宝珠、笠部、火袋の一部が欠失し、全体的に火災に通った痕跡がある。とくに笠部は一定時間、強い炎にさらされたと考えられ、大きな欠失はその時のものとみられる。軸部にも数カ所のひび割れがあり、とくに北面は補修がなされているものの目立っている。

（銘文）

葛下郡

永代講中

下田邑

大峯

常夜燈

山上

宝曆十三癸未八月吉日

（北）

（西）

（南）

宝曆十三年（一七六三）



②⑨ 農業佐平顕彰碑

■ 農業佐平顕彰碑（下田東四丁目）

（概要）

J R 磐城駅から東へ約三〇〇㊦、果道二〇三号線を左折して約二〇〇㊦に進んだ法楽寺境内東南隅に建立されている。

農業佐平氏（一八〇五—一八七七）は、諱を勤六といい、実直な人であったため村の組頭も任されていた。明治になり苗字が許されたが、佐平氏は自分の家は農を業とするので、農業とつけたという。文久二年（一八六二）、現在親水公園として親しまれている今池の北東隅の門樋付近を修築した際は、池普請棟梁として活躍し、明治一〇年（一八七七）の東堤修築の際も現場で指揮を執られた。これらの堤は堅牢で、佐平氏は農家の人びとに大変感謝されていたが、同年に卒中で倒れそのまま亡くなった。享年七十二才。

大正九年（一九二〇）四月、下田村の人びとは佐平氏の功労を追慕してこの碑を建立された。

（銘文）

農業佐平諱勤六豪邁卒直家固富有為組頭其創称姓曰余以農為農業故名其性行可推知也往時時今池改築氏董役督勵明謂治十年晚秋起工翌仲冬竣成工功得宜堅牢及今実利吾農其功豈可没乎氏遊殆五十年孫竹次郎亦勵農子女能勤可謂不恥其姓也

銘曰

其堤平堅

其水平玄

人工代夫

長湊吉田

中川晩翠撰

大正九年四月大字下田建之（背面）



③⑩法楽寺の凝灰岩製層塔



■法楽寺の凝灰岩製層塔（下田東四丁目）

（概要）

J R 香芝駅から東へ約三〇〇m、県道二〇三号線を左折して約二〇〇m 行った法楽寺境内北側の一角、いくつかの墓標が並ぶなかに所在する。現状は、基礎及び塔身、屋根の一層のみが遺存する。塔身高と幅はともに三九・五mである。塔身には月輪を石面いっぱいに刻み、金剛界四仏の種子を裏彫りしている。その字面も雄渾であり、鎌倉時代後期を下らない造立と考えられる。

③⑪五ヶ所の太神宮常夜燈



■五ヶ所の太神宮常夜燈（五ヶ所）

（概要）

市内穴虫で長尾街道と分岐する伊勢街道は、逢坂・北今市・下田・瓦口・別所方面へと通じている。下田から五ヶ所への旧道、集落の中央部付近に建立されている。

（銘文）

太神宮

明治三年九月吉日

（台石）

村中安全

明治三年（一八七二）

③⑫中山良碩頌徳碑



■中山良碩頌徳碑（狐井）

（概要）

狐井の集落を東西に延びる旧堺街道に面して、福応寺山門の右手に建立されている頌徳碑です。

教育者として地域発展に功績のあった中山良碩さんを讃えるため、大正四年（一九一五）四月、教え子の方々に建てられ、同年十一月二日には盛大な記念式が行われました。

教育に従事すること五〇年、郷土の恩師として敬仰されましたが、碑が建立された翌年の三月二日、病氣のため六八才で亡くなっています。

奈良県下西山根 北葛城郡下田村 村南大字狐井里 竹樹可以
蔵里清氣瀟灑風韻 先生不独失天分 姓曰中山名良碩 号
影水翁以書聞 先考良伯專業匠 一生終不得一見 先生神案
田某 成良伯嗣殊幼穉 幼而往來大木邑 片園春柳授篇什 文字
因緣也更深 琉唐幾載飽倉習 年甫十六歸中山 舍諸弟子鞠痴
頌 經曲章句整森嚴 筆雨墨雲淡 爾後維新大御政
明治天皇聖更聖 先生久奉事學校 還曆罷職問題詠 翁耶是翁
富春秋 溫淳寬厚吏名流 身倚北窓自從容 心与西山共清幽 鍊
將丹炎服沉 萃顏燦然好老態 雪髯飄逸孔羅罍 今年六旬有
七載 先生弟子看許多 左連右折厄天魔 養德思義難而重 不存
不朽奈之何 今茲發起者幾氏 誘諸弟子同志士 協議此舉多贊
成 千載不朽主張是 一片之石与志堅 口碑文字細磨 欲使師
資養德意 姓名永矣一以全 呼嗟嗟噫先生門 弟世情篤弟子職
分力行足力行足 処極精研師資節 目昭昭局

大正四歲五乙卯四月二日

臥雲道人藤豊題併書

印

五位堂地区

③③ 瓦口の一宇一石塔



■ 瓦口の一宇一石塔（瓦口）

（概要）

五位堂駅から北へ延びる真美ヶ丘幹線と国道一六五号線が交差するあたり、御坊浦公園から国道を挟んで北側に位置する。

「わが母校」によると、石塔を建立した秋山氏は南北朝時代に大塔宮護良親王を助け、楠木正成等と共に忠勤に励んだ宇陀の豪族で秋山藩主であったという。その後は、大坂夏の陣（一六一五）で豊臣方に組し、敗戦後、秋山城は明け渡しとなり謹慎の身となった。のち許されて瓦口の親類に身を寄せたとある。

この宝篋印塔は、享保・明和・天明と大飢饉が続いたため、世直しを祈願して建立されたと伝えられている。また、後世に台石付近から一字一石経が発見されている。

（銘文）

○宝篋印塔

梵 天明六丙午年三月吉日建立（右）

梵 三都妙典塚（正面）

梵 現成院顕善造意了繁居士（左）

（台石）

願主 秋山姓

天明六年（一七八六）・総高一七一センチ

③④ 阿日寺の五輪塔



■ 阿日寺の五輪塔（良福寺）

（概要）

狐井街道に面する光明山誕生院阿日寺は、平安時代の学僧恵心僧都源信生誕の寺として広く知られているところである。

境内の墓地には、二上山を背に二基の五輪塔が並んで祀られているが寺伝では源信の両親の墓とされている。向かって右側が父卜部正親で、左側が母清原氏とされているが、その形状から平安期まで遡ることに無理があり、後年の建立になるものと考えられる。

「首楞嚴院（しゅりょうこんいん）二十五三昧結縁過去帳」には、源信の家族構成について、「父卜部正親 母清原氏 家有一男四女 父雖無道心 性甚質直也 母是善女 有大道心 出家入道修西方業」とみえ、父は質朴で正直者であるが、格別道心があつたわけではなく、対して母は大いに道心があり、後に出家して西方の業を修したとある。

なお、阿日寺は、中世にこの地域一帯を支配していた大和武士の岡氏の菩提寺であった可能性が同寺梵鐘（貞享二年・一六八五）から読み取れ、さらに近くの狐井城山古墳に城を築いていたこともあり、この二基の五輪塔は岡氏の墓標とする見方もある。「北葛城郡史」はこの五輪塔について、「岡彌次郎岡周防守（二ノ墓 大字良福寺阿日寺境外ノ墓域ニ在リ五輪塔ニ基ヲ存ス岡彌次郎ハ天正八庚申歲十一月二十六日卒ス法諡賢樹院殿奉利宗安信士岡周防守ハ慶長七年三月十五日卒ス法諡高山院殿前周州雲峰宗松信士ト云フ狐井ノ城主タリ」と記している。

③⑤ 恵心僧都誕生之地碑



■ 恵心僧都誕生之地碑（良福寺）

（概要）

良福寺に所在する「恵心僧都誕生之地」とある碑で、昭和九年建立と新しいが、仏教学者の望月信孝氏が揮毫されており、後世に伝えているべき貴重な資料である。西面の銘文は浅く彫り窪めた中に、源信の業績を賞讃する内容のほか、建立者として「北葛城村住人智識建之」とみえるが、具体的には記されていない。

（銘文）三面（東・南・西）あり。

恵心僧都誕生之地（東）

昭和九年四月建 文学博士望月信孝書（南）

一空立三蔵書寫願爾未茲□□寫□千卷會昭和九□書寫往生要集一部千□和僧都遺蹟□□□□

□□香供養見□□聖地已荒□依之建碑長欲贊嘆聖德

北葛城村住人智識建之（西）

昭和九年（一九三四）・花崗岩製・高一七〇・五センチ・幅三三・〇センチ

西面彫込内寸 一六〇・五×一七・〇センチ



千股池築造記念碑（良福寺）

（概要）

千股池東堤の北隅に所在する築造記念碑です。南・西面に銘文があり北・東面は整形しないで自然石のまま残されています。

銘文からみると、享保一五年（一七三〇）の角倉興一御代の堤の改修からみて百三年（二年か）前の寛永五年（一六二八）、松平下総守（松平忠明）の御代に築造されたとあります。

（銘文）

百三年前寛永五戊辰年松平下総守様御代新被成下

享保十五庚戌年 角倉興一様御代堤築直被成下候

和州葛下郡良福寺村願主莊屋藤田基右衛門茂行

（南面）

藤田三右衛門

年寄 松本兵助

（西面）

同丸郎三郎

花崗岩製・総高一五四センチ、南面幅二九・五センチ、西面幅二一・五センチ